

## 1 1. 設営隊記録

設営隊長 真島 徳 衛  
県立加茂農林高等学校

### 1. はじめに

幕営地の置かれた湯沢町には実に多くの観光客が訪れる。その目的もぼっと思いつくところだけ挙げても登山、スキー、温泉、フィッシング、音楽、林間学校、運動部の合宿、予備校の勉強合宿がある。

今回の大会はその狭いエリア内にいくつもの団体が各々の活動を展開するという状況から生じる「多様な観光客が訪れる町・湯沢町」ならではのドキドキする様な思わぬ事態にも遭遇した。終わってしまえば、それも楽しい思い出の1ページであるが、都道府県を代表して集まった選手・監督には、それらを異文化の相互理解、寛容の精神を感じる幕営地生活の場面であったと前向きに捉えてもらおうと、こちらとしては気が楽になる。

さて、物事を進めるときは「段取り8分」とよく言われる。失敗はしたくないのでそれを目標に準備を進めた。昨年の視察以降多くの打ち合わせに参加することも出来たので、かなりしっかりしたイメージで当日を迎えることが出来た。しかし始まってみると、それでも至らない点が多々あり、次にある「2. 大会の記録」を読んで頂ければ分かるが、その都度設営隊員の先生方からカバーして頂いている。そのことに感謝申し上げたい。

それでは全国から選抜された選手・監督の奮闘・活躍を思い返しながら、また苗場プリンスホテル様はじめ湯沢町の皆様のご理解とご協力に感謝しながら、大会に携わった7日間を振り返ってみたい。

### 2. 大会の記録

#### 8月5日(日) 開会式2日前

13:00 大会期間中に設営本部として利用する「無料休憩所」に設営隊長と副隊長がそろ

う。この休憩所内の手前半分にはテーブルとイスが無造作に置かれており、インターハイで使う用具も多数搬入されており、身動きが取りづらい。また、床のカーペットには多数の細かい枯れ草が張り付いており汚さを感じる。「まずは掃除から始めよう」となり、床を掃き、テーブルとイスのレイアウトを考えながら並び替えた。その後沢山の物品を品仕分けした。その甲斐あって設営本部らしい雰囲気が出来てきた。大きな木製テーブルを3人で囲み「設営隊の行動マニュアル」を読み合わせし、明日以降の段取りの確認した。

18:00 夕食(ホテルでのバイキング)

22:00 消灯



8月6日(月) 開会式前日

6:00 起床

7:00 朝食(ホテルでのバイキング)

9:00 設営隊長、設営副隊長の3名が設営本部に集まり、準備作業を再開。

昨日の掃除の続きをやり、テント設営予定場所の状況確認をしていると、水くみ場の設置を担う業者が到着。トレーラーから流し台を降ろし、図面と照らし合わせながら設置位置の確認に入る。その後、テント設置業者、トイレ設置業者も到着。今回の配置のポイントは、水くみ場、トイレ、接待所、設営本部がいずれも近距離にあり、利便性に配慮した

ことだ。しかしこれは言葉を換えれば、サンプリングや水くみ場といった人が口にするものを扱う場所の近くに排泄行為をするトイレがあるということで、神経質な人なら気になると思う。そこで、各業者に設置場所の位置や角度、距離の取り方など細かい要望を伝え、作業に取りかかっていた。「男子トイレ設置場所の地面がゆるやかな坂になっていて困ったなー」と話しがあつたが、トイレの下に板を入れてうまく設置完了。

そうこうしているうちに、沢山の小学生を引き連れた団体が、こちらが幕営地に予定している場所で楽しそうにレクリエーションをやりはじめた。「えっ!?これは何かの間違いでは!?!」。引率者に確認したところ、午後もやる予定とのこと。「我々は今日の午後、その地面に多数のビニールひもを固定する作業をしていくのに……」この困った状況をホテル側に確認すると、お互い上手に対応してほしいと要望された。詳しく聞いてみると、なんと大会初日の午後までレクが計画されているらしい。ということは、なんと選手団が幕営生活中に、同じところで小学生もレクをしているという最悪の事態になってしまう。何らかの事情で会場がバッティングしたのか?。こちらの事情を丁寧に説明し、その団体にはインターハイ会場に子どもを近づけないで欲しいと協力を願った。



11:00 頃～ 設営隊員、補助員が到着。

12:00 昼食（弁当）

12:30 設営本部にどんとんと人が集結

昨日から幕営地に入っている我々3名に加え、設営隊員5名、補助員25名、設営救護員3名の総勢36名でこれからの業務を進めていくこととなる。

13:00 設営隊員、補助員の初ミーティング

全員での初顔合わせである。心なしか緊張気味。お互いが簡単な自己紹介を終えた後「設営隊マニュアル」を配布し、目次を読む程度でここは終えた。というのも、午前中は晴れていたものの、午後からは天気が崩れるらしいので、早めに幕営地へのビニールひも固定作業に取りかかりたかったからだ。A隊、B隊共に、48区画の区画を作る。「どうすれば、短時間で、正確な区画が作れるのか?」実は、ここが一番試行錯誤してきたところだったし、腕の見せ所でもあった。生徒自身やや浮き足立っている雰囲気もあったが、結構上手くいった。作業途中で、小雨が降ってきたため、雨具を身につけての作業となり予定時間を若干オーバーして終了。一段落着き安堵の気持ちが湧いた。しかし、後でこの作業中にメジャーが3つ壊れたことを知りショックを受けた。このメジャーは各先生方の協力によりそれぞれの学校から持ち寄ってもらった借り物だからだ。作業開始前に補助員の生徒に「丁寧な扱いをするように」としっかりと心構えを持たせなかったことを悔やんだ。

17:30 役員会

ホテルに戻り、大きな部屋に今大会で運営に携わる役員・補助員が一堂に会し、中村登山隊長らから挨拶をいただく。その後、設営隊は部屋を移動。昨年の青森大会のエピソードを交えながら、設営隊の業務内容と成功の秘訣と思われることを説明した。

18:30 夕食（ホテルでのバイキング）

22:00 消灯

8月7日（火）開会式当日

6:00 起床

#### 6:30 朝食（ホテルでのバイキング）

点呼を兼ねて役員用の健康チェックカードを回収。

#### 8:00 幕営地の準備作業開始

テント設営の区画に県名プレートを設置する。「昨年は県名プレートの配置ミスがあった」と聞いていたため、念には念を入れてプレート配置するようにお願いした。トイレにはトイレトペーパー。また各種の看板を適切な位置に設置した。看板には「設営隊本部」「接待所」「サンプリングコーナー」「ごみ集積所」「選手ザック集積所」「監督ザック集積所」といったものがある。これらを設置する向きや場所にも気を遣い、見やすさを確かめながら固定した。トイレには性別の表示、水くみ場には使用上の注意を表示。また、のぼり旗を組み立て、幕営地内の適当なところや浴道への設置。旗にも種類があるので、そのバランスまで考えて配置してくれたのには頭が下がった。さらに、接待所の机やイスの配置もサンプリングケースやゴミ箱との位置関係を考慮し、選手の動線も考えて、微妙に調整した。ちなみに大会後半になるとある出来事をきっかけにゴミ箱の配置を変えることとなる。詳細はこれ以降の文章に記すが、そこまでこだわりをもって対応してくれた役員・補助員に感激した。

またこれとは別に、幕営地情報や気象情報掲示板の設置にも見やすさを追求した。後日談だが、大会期間中に実に多くの落とし物が集まってくる。その実物を袋に詰めるなどして貼りだし始めたら、掲示する面積が不足してきたため、幕営地情報ボードをもう一枚追加して設置することになった。当然このときは、まさかそうなるとは想像していなかった。

#### 12:00 昼食（弁当）

点呼を兼ねて役員用の健康チェックカードを返却。

#### 13:00 午後の準備

サンプリング準備として、氷水に沢山の缶を投入する。また、午前の取り組み状況をお互いで再点検しあう。



#### 13:30 引継式リハーサル

現地で選手が到着してから引継式を終えるまでの動きを細かく確認する。指示に素直に従いテキパキと動いてくれる補助員の生徒達を見て「いける!!」と感じた。

#### 14:40 選手団到着

拍手で選手団を出迎える。このとき我々が重視したポイントは、如何に到着した選手団をスムーズな流れの中でコンパクトにししっかりと整列させるかであった。そのためザック置き場には班毎の看板が立ててある。その甲斐あって実に選手団の動きがスムーズで無駄がない。「段取り八分」というが、まさにその通り。丁寧に準備して下さった先生方に感謝である。

#### 15:00 引継式

この引継式の前半はA隊B隊合同である。ここでは、設営隊副隊長司会の元、設営隊長挨拶、隊員紹介、幕営地説明、炊事場、トイレ、ゴミ集積所、救護について案内する。近くでは、昨日の小学生の団体がレクリエーションをしているが、これもこれで行楽地である湯沢町らしさと考えることとした。後半はB隊から場所を移動してもらい、隊別での引継式である。そこでは、隊長連絡、審査員からの設営審査、炊事審査の説明があり、終了となる。

暫くすると無線機から設営隊長の呼び出しがあった。それは班長からのもので、「『選手からスパゲティのゆで汁を水くみ場に

捨てても良いか?』と聞かれたが、どうすればよいか?』との内容であった。即答にも窮したので、「その回答は全選手にも伝わるように、幕営地情報として掲示しておくので、それを見るように伝えて欲しい。」と答えた。

後で分かったことだが、多くの参加校でスパゲッティは大会メニューの定番で、このような質問は毎年あるらしい。その様な対応への準備不足を反省した。また、ゆで汁の捨て方をコピー用紙に書いて幕営地情報として掲示したが、審査員長から「このような案内は引継式で全員に徹底してからにしてほしい。」という依頼があり用紙を撤去する。さすがインターハイ。公平性への配慮の仕方を学ぶ場面となった。

#### 15:40 設営審査開始

各都道府県から選抜された選手達だけあって動きに無駄がなく、規定の10分以内に設営が完了。

#### 16:00 A隊・B隊交流会

南ゲート前駐車場に集合し、各班単位で交流が始まる。笑い声あり、歌声ありで、実に楽しそうだ。

#### 16:40 サンプルング開始

始めのうちは、やや遠慮気味に飲み物ももらいに来る選手と、それにぎこちなく対応をする補助員であったが、お互いすぐに慣れ、接待所のテント内は、ちょっとした会話と冗談の飛び交う社交の場になっていた。

#### 17:00 第一陣の入浴・食事

今晚、設営本部での夜間対応業務をお願いしてある隊員と補助員からは一足先に入浴してもらい、早めの夕食をとってもらおう。

#### 17:40 気象情報の掲示。

#### 18:40 設営隊員の交代(第二陣の食事)

先に入浴・食事を済ませた隊員が接待所に戻ってきたので交代する。また、設営隊長と副隊長は、本日問い合わせのあったスパゲッティのゆで汁の件と明日以降の水くみ場の使用ルール等について相談する。結論とし

ては、「調理過程に出るゆで汁は捨てて良い。ラーメンのスープの飲み残しや残飯は予め出さない工夫をして調理にあたってほしい。」と伝えることにした。

#### 20:00 接待所を閉じる。

ゴミ箱を設営本部に運び入れる。想像以上のゴミの多さに驚いた。また、生ゴミは夜出さないように伝えてあったが、いくらか出されている。残念!!

#### 20:30 選手消灯

幕営地をそっと覗くと、選手、監督いずれのエリアも静まりかえっていた。しかし、遠方からフジロックフェスティバルを思い出させるような音楽が聞こえてくる。どこかで若者が楽しんでいるようだ。眠れない選手もいるのではないかと……とやや心配になる。

21:00 設営本部に戻ると、夜間対応でここで一夜を過ごす補助員の生徒らは夏休みの宿題を手にして勉強中であった。我々は明日の手順を再度確認して、明日の起床時間を確認して寝袋で寝る。



#### 8月8日(水) 第2日目

#### 3:00 起床

設営本部で寝袋で寝た生徒は「先生、イビキで眠れなかったよ。どう責任取ってくれるの(笑)」と言いながらもテキパキと寝袋を片づけて、準備を始める。

#### 3:30 選手起床

これに合わせて接待所を開く。暫くするとゴミがどんと運ばれてくる。

#### 4:20 ザック集積所を開いて受け入れ開始。

#### 4:30 気象情報の掲示。

#### 5:00 引継式

A 隊は幕営地近くで実施。健康チェックカードの回収、点呼もスムーズである。設営隊長の挨拶、コース隊長挨拶、審査員からの連絡があり終了。本部から熱中症対策として朝の段階でサンプリングするようにと指示が出ていた。そこで1人1本その場で飲むように伝え1人1缶配布した。その間に救護引継会を行うが、まだ登山が始まっていないこともあり、顔合わせ程度で終了。

B 隊は南ゲート駐車場で実施。健康チェックカードで不調を訴える選手がいた。その学校の監督からは「その選手を残して健康な選手3名を苗場山に登らせたい」と申し出があった。気持ちは分からないでもないが、本部より学校単位で幕営地に残るようにと指示が出る。そこで、設営本部内の畳スペースに仕切り板を立て、健康不良の選手からはそこで休んでもらう。その他の健康な選手にはテントを設営する場所を示し、そこで休んでもらうこととした。

実はこの様な対応をしている時に、「ホテルで宿泊した補助員何名かが寝坊して引継式に来てなかった」との報告を受けた。朝の点呼をしていなかったのも、言われるまで気づかなかった。これが仮に寝坊でなく、怪我・病気等でホテルの部屋で倒れていたとしたら、気づかなかったで済まされない!!計画の甘さを痛感した。

5:30 監督サック集積所に集積されたザック3個を設営本部内に移動した。監督が戻ってきたときに、集積所に戻すこととする。

6:00 朝食

9:30 設営隊の集合

朝の寝坊の件もあり、計画の変更を伝える。内容は(1)明日の朝は設営隊員全員を4:00に点呼。また(2)この様なマニュアルにない指示を出すこともあるので、全員が情報を共有できるように「幕営地情報掲示板」ならぬ「設営隊情報掲示板」を設営本部に設置すること。(3)常にその最新情報を確認する

こと、の3点である。

その伝達の後、幕営地の管理に入る。内容は県名プレートの場所替え、水くみ場・トイレの清掃、幕営地のゴミ拾い、そしてゴミの分別処理である。当初の計画では、選手が登山行動中に、我々はゴミの分別が湯沢町の区分に従って正しく行われているか、場合によってはゴミ袋からゴミを出してトングで分別し直すことも視野に入れて計画しておいた。しかし、ホテル側のご厚意で、大量のゴミを一手に引き受けてくれるということになり、その作業が無くなり、気が楽になった。ただし、選手にそのことを伝えると混乱を招くし、マナーの低下が目につく可能性も考えられたので、分別を押し通すことにした。

なお、本日登山を中止し幕営地に残った学校の監督から「健康な選手3名をハイキングがてら近くの山に登らせたいが良いか?」と問い合わせを受けた。本部に確認したところ、本部役員2名がボランティアガイドとして登山を案内してくれるということになった。この粋な計らいに心が温かくなった。

10:00 林道サンプリング隊出発準備

氷、サンプリングケース、飲み物(いろはす)、のぼり旗、弁当と無線機を車に積んで出発

10:30 ドラゴンドラサンプリング隊準備

同様にゴンドラ乗り場に向けてレンタカーで移動。そこからゴンドラに荷物を積み替えて上に登っていく。

12:00 昼食(ホテルでのバイキング)

14:00 設営本部で点呼、午後の作業開始

ちょうどその時、「まもなくA隊が幕営地に入ります」との報告を受けた。「確か到着は15:10頃のはず!今はまだ14:00になったばかり、何かの間違いではないか?」と確認すると、「講演会の会場が当初の平標駐車場から、幕営地に変更になっているので、間違いない」との回答であった。そこで、急いで講演会の会場設営を始め、隊員を整列さ

せ、選手を拍手で迎える準備にはいる。

急いで監督の先生のザックを設営本部から監督ザック集積場に戻す。

#### 14:20 A 隊への講演会

かつて全国高体連副部長を務められた藤田善思先生の講話を聞く。「登山グッズの特性・使い方を熟知して、ものを上手に工夫して使う智慧を養おう。そうすると本当にピンチな場面でも命が助かることもあり、それが真の『生きる力』にもなる。」という話しであったように記憶している。白馬での山岳事故もあったばかりで、考えさせられる内容だった。その後 A 隊選手には冷たい食べ物が配布され、そのままの流れで引継式に入る。

#### 14:40 A 隊引継式

コース副隊長司会の元、コース隊長挨拶、設営隊長挨拶、審査員からの設営審査、炊事審査の説明があり終了となる。(この選手らには今日、お風呂が待っている。メインザックを背負っての山行の疲れを温泉でのんびりと癒やしてほしいものだ。) 引継式後、救護引継会を実施。その後、監督の先生方には「雪ささの湯」での入浴案内をする。笑顔で歓声をあげていただき、設営隊員の接待業務にやり甲斐を感じた。

#### 15:20 設営審査。

#### 17:00 A 隊 1～4 班の入浴の誘導

ゴミの中にほとんど手つかずの行動食がジブロックに入ったまま捨ててあるのが発見される。A 隊のだれからしい。その選手も先ほど藤田先生より「ものを工夫して使うことが生きる智慧をつくるんだ」と教わったばかりなのに、「この食べ物を手つかずで捨てるわけ？」と思ったら悲しくなった。袋には今日の日付が書いてある。明日以降の重荷になると考えての行為であろうが、本当に残念だ。

このころから監督の先生方への温泉「雪ささの湯」行きへのバスの手配が忙しくなるものの、設営隊へのねぎらいの言葉や感謝の言

葉を沢山いただくので、俄然やり甲斐を感じる。

また、落とし物もどんどん届けられてくる。それを袋に入れて、拾われた日時等を書いて、幕営地情報のボードに貼り付けていく。



#### 17:20 B 隊引継式

予定よりも大幅に遅れての到着となった。コース副隊長司会の元、コース隊長挨拶、設営隊長挨拶の後、審査員からは設営審査・炊事審査なしと連絡がある。

#### 17:30 設営隊員第一陣の入浴・食事

本日ホテルのベッドで寝ないで設営本部での夜間対応業務をお願いしてある隊員と補助員からは、先に入浴してもらい、早めの夕食をとってもらおう。

#### 17:40 気象情報の掲示。

#### 18:00 A 隊 5～8 班の入浴の誘導

#### 18:40 設営隊員の交代 (第二陣の食事)

先に入浴・食事を済ませた隊員が接待所に戻ってきたので交代する。そうこうしているうちに、「またもや行動食が袋のまま捨てられている。2 袋目は B 隊ということは確かだが、学校は特定できない。」と連絡を受けた。朝の引継式で注意することを設営隊長と副隊長で確認し合う。

20:30 選手の消灯と同時に接待所を閉じる。

幕営地をそっと覗くと、選手、監督いずれのエリアも静まりかえっていた。

21:00 設営本部も消灯

8月9日（木）第3日目

3:20 起床

3:30 接待所を開く

設営隊員の先生のアイデアでゴミ箱の位置を変え、ゴミ箱1つ1つの前に、生徒が1人ずつ着いて、分別の仕方をサポートしながら捨てさせていた。そこでも選手らと補助員の挨拶や会話もあり、良いムードであった。



4:00 補助員集合・点呼

4:20 ザック集積所を開いて受け入れ開始。

4:30 気象情報掲示

5:00 引継式

A 隊は南ゲート駐車場で実施。

B 隊は幕営地近くで実施。昨日同様、熱中症対策として朝のサンプリングが配給される。

6:00 朝食

9:30 幕営地の掃除等

男子トイレ 20 基並んでいるうち、両端のトイレで汚物が流れずに詰まっていると報告を受けた。調べてみると、両端は使用頻度が高く洗浄液がなくなっていた。20 基のトイレが均等に使われれば洗浄液の補充もほとんどいらないのだが、今考えてみれば、幕営地や水くみ場に近いところはよく使われて当然だ。油断があった。全トイレの洗浄液

を確認し、不足気味のトイレに薬剤を適量投入し、バケツで水を追加した。それにしても汚れたトイレをイヤな顔をせずに、進んで清掃してくれた補助員には頭が下がる。また、落とし物が幕営地情報ボードに一杯になったので、もう一枚情報ボードを追加して設置した。

10:00 林道サンプリング隊準備・出発

サンプリングについて昨日「選手や監督から炭酸水が良かったのに……。」という声が多数あったと聞いていたので、サンプリングを炭酸水にして良いか本部に問い合わせる。嗜好性の重視も大切だが、本大会は熱中症対策に重点を置き、みんなが飲めるものという判断からそのままとなる。

飲み物（いろはす）、氷、弁当と無線機を車に積んで出発。

11:00 ドラゴンドラサンプリング隊出発

同様にゴンドラ乗り場に向けてレンタカーで移動。そこからゴンドラに荷物を積み替えて上に登っていく。

12:00 昼食

B 隊と本部との間で体調不良の女子選手を車で迎えに行く計画が無線機で盛んにやりとりされている。「林道サンプリング隊も対応できる」「林道ゲートの鍵を開けて……」など聞きながら、その選手が運び込まれたときの準備を始める。自衛隊車両が国道を走ってこちらに向かってくるものの、なぜか幕営地駐車場には来ずに、Uターンして、再び平標の方向に向かって戻って行った。暫く待つと、その選手のいるパーティーを乗せて自衛隊車両が幕営地にやっと到着。心配した選手の様子も比較的回復しており、安心した。

15:20 B 隊引継式

予定されていた B 隊の講演会は中止。

設営隊長からは選手の労をねぎらい、入浴について説明し、短時間で挨拶を終える。

救護引継式では体調不良の生徒の様子と今後のケアなどについて詳細に打ち合わせ

る。

16:00 今度は男子選手の体調不良に関する無線が盛んに飛び交っている。自衛隊員に担がれて自動車の入れるところまで降り、幕営地に向かわせるという。到着後速やかな対応ができるように準備を開始する。

体調不良の男子選手到着。医師の問診を受け、畳の上で横たわった状態で点滴。具合が相当悪そう。

16:45 A 隊引継式

引継式には設営隊長の挨拶も予定されていたが、緊急対応に追われていたため、挨拶を副隊長に代わってもらう。

救護引継会のメンバーの多くが設営本部に結集しているため、ここで状況の確認と今後の対応について確認しあう。

17:30 B 隊 1～4 班の入浴の誘導

17:40 気象情報の掲示。

18:00 B 隊選手 3 名が筋肉痛を訴えて設営本部を訪れる。看護師が 19:00 に設営本部を訪れることになっていたので、その時間に再度来るように伝えて帰す。

18:30 B 隊 5～8 班の入浴の誘導

19:00 看護師、設営本部で男子選手の様子を確認。かなり回復し、会話も出来るようになってきている。心配された排尿もあった。念のため本日は設営本部で朝まで休んでもらうことを顧問の先生らに伝える。

B 隊選手にも対応。シップをして様子を見るように伝える。

21:30 近隣から騒音

設営本部に詰めている副隊長から携帯電話に「夜遅い時間にもかかわらず、幕営地近くのライブハウスのようなところから若者の歌声や歓声が漏れている。静かにしてほしい旨、お願いしたが、相変わらずだ。どうしましょうか？」と連絡が入る。役員数名で騒音もとに行ってみると、そこは小体育館のような構造で、窓が開け放たれ、音が外に完全に漏れている。音量を絞ってもらうように再

度お願いする。相手も恐縮しているものの、楽しいライブを途中で打ち切ることが出来ないだろう。相手にも相手の事情もある。いくらかは音量を下げただいたが……。んー。異なる文化の相互理解と寛容性の必要性は分かるつもりだが、疲れ切って眠りにについている選手らには大変申し訳ない気持ちになった。

22:30 ホテルに戻り消灯

振り返ってみると、気が休まらない疲れた一日であった。しかし、多くの方の協力とチームワークでトラブルを普通に対応して、1つ1つ確実に乗り越えている。そのすばらしさに感謝しつつ眠りに入る。天気も連日我々に味方してくれている。いよいよ明日で終わりだ。

8月10日（金）第4日目

3:40 起床

4:00 接待所を開く

昨日同様、朝のゴミ捨ての場面で、選手と補助員の交流が接待所内で繰り広げられている。ほほえましい。

昨夜の騒音が気になっていたので何人かの選手に「昨夜は消灯後に音楽が鳴っているのも聞こえたようだが、しっかり眠れたかな？」と聞いてみると「いやー、眠れなかったよね！」と答える選手がほとんどだった。

4:20 補助員集合

ザック集積所を開いて、受け入れ開始。

4:30 気象情報掲示

落とし物が多数持ち主に返らないまま残っている。選手が幕営地から引継式会場に移動するとき、少しでも目にとまるようにと、落とし物がまるでクリスマスツリーのようにぶら下がっている幕営地情報掲示板が目につくように向きを変え、さらに補助員らが「落とし物を確認して下さい」と声をかけた。1～2個はこのとき持ち主に返ったが、



多くはそのままであった。

#### 5:30 A 隊引継式

本日はA 隊、B 隊共に南ゲート前駐車場で時間差の中で実施。

A 隊に最後のねぎらいの言葉をかけ、引継式を終える。選手がバスで移動するのを B 隊の選手も含めてみんなで手を振って送り出す。

#### 6:00 B 隊引継式

B 隊にも最後のねぎらいの言葉をかけ、式を終える。今度は歩いての移動となるので、設営隊みんなで一列に並び拍手で送り出す。みんな元気そうで笑顔が良い。

幕営地情報の落とし物ボードも会場に持ち込まれ、A 隊 B 隊の移動時に最後の確認をしてもらっても、無駄足となる。そして結局、落とし物は結局翌日の閉会式会場に運び込まれることとなった。「絶対持ち主が見れば私のものと分かるだろうに……」と話すと、「選手の中には、落とし物をして迷惑かけたということがひょっとして審査に影響するのではないかと不安になり、取りに行かない場合もあるらしいよ」と答えてくれた方があり、「なるほど」と思うと共に、複雑な気落ちになった。

#### 7:00 朝食

その後、設営隊員で後片付けの打ち合わせを行う。

#### 9:00 幕営地の掃除等

午後じっくり休むためにも、午前中は本気出して全ての作業を終えよう！を合い言葉にみんなで取り組んだ。あっという間に終わった。テント設置業者、トイレ設置業者、水くみ場設置業者も到着し、撤収作業を終える。レンタカー 2 台でサンプリング用のドリンクとケースを湯沢カルチャーセンターに運搬。

#### 12:00 昼食

13:30 最後の仕事として、B 隊のザック集積所の鍵を開けて、ザックの返却作業に入る。

お疲れ様でした。

### 3. 終わりに

大きな混乱もなく、無事任務を終えることができ嬉しく思う。これも設営隊員と補助員の心のこもった真剣な取り組みのおかげであり、感謝申し上げたい。特にうれしかったのは、一緒に取り組んできた方々のご存じのように、マニュアルに決められた計画どおりにしっかりと取り組んでいただくと同時に、その中で気づいた改善点があれば、それを具体的かつ前向きに提案し、対応してもらったことだ。また、業務の変更をお願いしても快く引き受けて、こちらの意をくんでしっかりと取り組んでくれるその姿。このように主体性や自立性を至る所で発揮してくれたメンバーにありがたさを感じた。

その様な雰囲気の仕事が進んでいたのも、私自身心にくらかの余裕もあり、全国各地から選ばれた選手との何気ない雑談、監督の先生との会話を楽しむことも出来た。

我々の取り組みが次年度の開催県、大分県の何らかの参考となり、大会が成功することを祈念し終わりたい。

## 12. 気象記録

総務気象担当 三谷 忠生  
県立新発田南高等学校  
日本気象予報士会新潟支部

### 1 はじめに

北陸地方は7月26日ごろに梅雨明けし、その後、太平洋高気圧に覆われた。湯沢町では、8月5日まで連日30℃を超える夏日が続いたが、8月6日からは、暖かく湿った空気の流入や上空の寒気の影響により雲の多い天気となった。当初、熱中症を心配していたが、気温の上昇が抑えられたことにより、登山行動は順調に進んだ。

### 2 気象情報の提供について

今大会期間中、大会本部・幕営地への気象情報の提供は、日本気象予報士会新潟支部会員2名が担当した。インターネットを利用し、気象庁や、ウェザーニューズ社の「Labs Channel」にあるデータ、新潟地方気象台の天気予報や注意報、警報の発令状況を確認し、さらに午前4時と午後4時には、新潟地方気象台から電話による助言をもらった後、最終決定をした。雷に関する情報は、インターネット上にある東北電力、東京電力の情報を利用し、リアルタイムで監視した。以下に、利用したウェブサイトを示す。

気象庁

<http://www.jma.go.jp/>

新潟地方気象台

<http://www.jma-net.go.jp/niigata/>

株式会社ウェザーニューズ

<http://weathernews.jp/>

東北電力

<http://www.tohoku-epco.co.jp/weather/niigata.html>

東京電力

<http://thunder.tepco.co.jp/index.html>

### 3 大会期間中の気象概況

最高気温と最低気温はアメダス（湯沢）のデータである。

<8月6日（月）開会式前日>

最高気温 30.4℃、最低気温 22.5℃

暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となる。新潟市で突風（ガストフロント）が発生した。この状態は弱いながら、大会期間中続いた。上空500hPa、-6℃の等温線は湯沢町より南に。850hPa、18℃の等温線は東北南部に。上層と下層の気温差が大きい。

<8月7日（火）開会式、審査>

最高気温 29.2℃、最低気温 20.5℃

日本海に高気圧。上空500hPa、-6℃の等温線は湯沢町上空付近に。850hPa、15℃の等温線接近。下層の気温下がる。雲多い。

<8月8日（水）登山行動1日目>

最高気温 25.6℃、最低気温 19.2℃

日本海に高気圧停滞。上空の寒気は、三陸沖で寒冷渦となる。上空500hPa、-6℃の等温線は東に少し後退。寒冷渦の影響は弱い。850hPa、12℃の等温線接近。下層の気温下がる。苗場山頂付近で一時雨。

<8月9日（木）登山行動2日目>

最高気温 29.1℃、最低気温 18.5℃

日本海の高気圧消滅。三陸沖の寒冷渦停滞。寒冷渦の影響は弱い。上空500hPa、-6℃の等温線は西に膨らみ湯沢町上空付近に。850hPa、15℃の等温線接近。下層の気温上がる。降水なし。

<8月10日（金）登山行動3日目>

最高気温 30.0℃、最低気温 18.0℃

三陸沖の寒冷渦弱まる。上空500hPa、-6℃の等温線は湯沢町より南下。850hPa、15℃の等温線湯沢町の北へ。下層の気温上がる。積雲発達する。降水なし。

<8月11日（土）閉会式>

最高気温 29.6℃、最低気温 21.3℃

上空500hPa、-6℃の等温線は東北地方まで北上。上空の寒気抜ける。太平洋高気圧の影響強まり始める。

大会本部・幕営地へ提供した気象情報の一例を以下に示す。

5 実況天気図 (8月9日 21時)

インターハイ気象情報

対象 2012 北信越かがやき総体登山大会  
会場付近情報  
発表日時 2012年8月9日 4:00

1 天気概況

平成24年8月8日 16時 35分

新潟地方気象台発表

(気圧配置など)

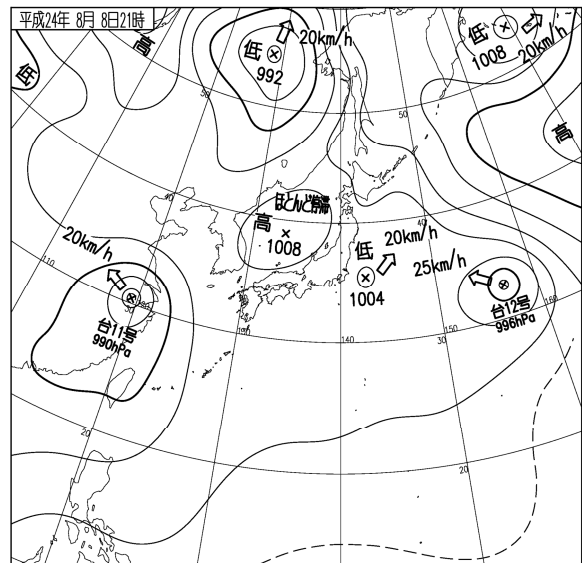
日本海には高気圧があって、ほとんど停滞しています。

(天気分布など)

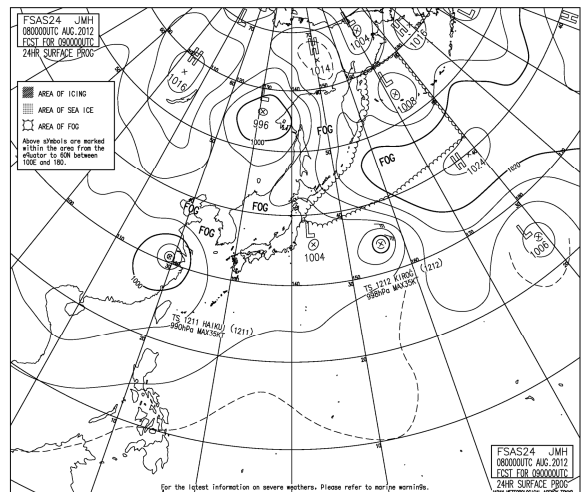
曇り又は晴れで、一部で雨となっています。

(今日の天気 9日)

引き続き、高気圧に緩やかに覆われますが、気圧の谷の影響を受ける所がある見込みです。このため、曇り昼前から時々晴れで、雨の降る所があるでしょう。



6 予想天気図 (8月9日 9時)



2 天気概況補足 (8月9日 4:00 大会本部  
気象予報士補足)

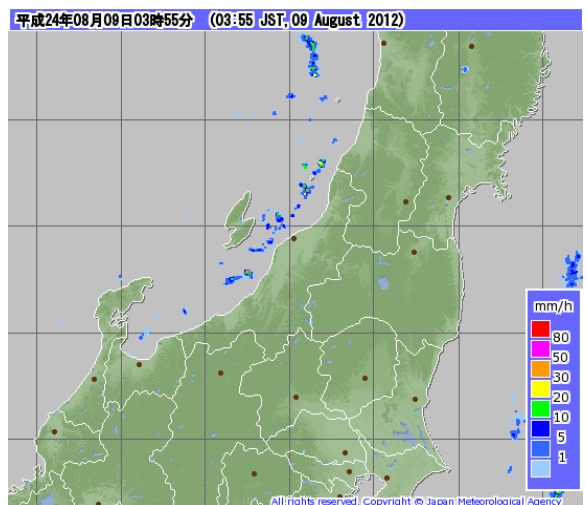
三陸沖の寒冷渦の影響は少なくなります。大会山域は北～北西の風で、雲が残ります。雨がばらつくことがあります。

3 注意報・警報等

対象地域には、注意報・警報は出ていません。

レーダーアメダス 3:55

4 天気予報 (ウェザーニュースより)



## 13. 通信記録

総務通信記録 吉田光二  
新潟県立新潟県央工業高等学校

今大会は過去の大会に比べると狭い範囲の山域であったが、全山域をカバーするため中継局をどこに設置するかが重要なポイントとなった。候補は3か所。中継地点までの移動が容易で、全山域をカバーできるということ、初めは毛無山を中継局とすることにした。通信テストは大会前年には終えておきたかったので、10月中旬にある秋の顧問研修会でテストを行った。無線機はレンタル業者にお願いして卓上型デジタル簡易無線機（350MHz帯）1台と携帯型デジタル簡易無線機（350MHz帯）簡易デジタル無線機を5台借用した。また、大会本部となる苗場プリンスホテルのレストランをお借りして、卓上型デジタル簡易無線機を設置し一応屋上にアンテナを設置することも考え、要員を屋上に配置した。行動隊は3隊に分かれて、3コースを歩いてもらい主要ポイントで本部に連絡を入れてもらった。中継局は当初の予定の毛無山に置いたが、田代ゴンドラ頂上がいいのではということで、急遽、要員を配置した。テストの結果、田代ゴンドラ頂上、毛無山のどちらも、全域をカバーすることができることがわかり、固定機は室内アンテナで十分であった。最終的に中継局は車で移動ができ、建物もある田代ゴンドラ頂上に決定した。

### 1 通信体系について

登山隊は、基本的には全役員が無線機を持ち、無線機によって指示・連絡をする形式であった。

登山隊役員は簡易業務無線機（デジタル1W）を所持し、隊内通信はA隊26ch、B隊29chで行い、隊外通信は共通として23chで通信を行った。また、審査はA隊21ch、B隊22chで独自に運用した。

隊外通信は田代ゴンドラ頂上に中継局を置き、中継局と本部は5W機を配置し、すべての隊外通信は中継局を使って行うこととした。

設営隊との隊外通信は共通23chで行い、設

営隊内の通信は20ch。設営隊内の補助役員には高体連業務無線機を配置した。

### 2 本部通信

通信員は必ず二人配置し、一人はメモを記入しながら通信し、一人はPCに入力する態勢をとった。通信内容は中継局が受信しているときに概略を把握して、中継の送信によって確認する方式で、時間がかかるようでありながら正確さが確保できると判断した。

### 3 田代中継局

通信員は二人配置で泊まり込み態勢をとってもらった。すべての隊外通信は中継局を使って通信したので、その任務は重く、登山行動中は休む間がなかったと思われる。さらに水・食料は持ち込みであったので、それに耐えうる人材が要求されたが、適材配置だったと思う。

### 4 隊付通信員

コース隊長の後ろに隊付通信員を配置し、隊外通信を担当した。隊外通信担当は2台の無線機を持って、電池切れと機器トラブルに備えた。

### 5 通信研修

本部通信、中継局、隊付通信のメンバーで、簡潔にして聞き取りミスなどのないよう様々な場面を設定したシーケンスによって模擬通信を行った。

登山隊役員全員の通信練習は、講習会時と開会式前日の登山隊役員会直前に行い、無線機の取り扱い、通話ボリュームテスト、ch切り替え、隊外通信への切り替え等も練習してもらった。

### 5 その他

自衛隊通信も田代中継の隣に中継車両を配置して、入信内容を確認し合った。また、本部においても自衛隊通信が同室であったので、内

容確認などの連携をとることができた。

隊離脱が生じたときは、隊列を離れる前に支援隊員の無線機を隊外 ch に切り替えて、中継との通信を確認してから離脱する対応をとるようにした。

全無線機に名入タグをつけて、機器及び充電管理等を徹底した。100 台いっせいの充電は電源コンセントに不安があり、コードリール等を多用して電源を分配して確保した。

100 台による通信では、隊内通信と隊外通信が重なる 때가 あって、違う ch にあっても抑圧があることが分かったが、タイミングをずらすことによってカバーしてもらった。

また、携帯電話によるカバーも行ったがその使用はごく限られたものであった

## 6 終わりに

中継局は前記したように、通信すべてを中継することにしたために、業務内容は当初よりも倍増し、登山隊通信の心臓的役割を担うことになった。限られたスペースの中で、生活を送りながらの業務は想像を超えたものがあつたに違いない。

隊付通信員は交代要員もなく、登山行動しながら隊内通信を行うコース隊長の声を聞きとって本部に報告するという、過酷な業務であった。その労苦は大変なものであったと思う。

これらの通信業務は、登山大会の血管ともいえるもので、大動脈から末梢血管のごとく隅々まで通信が滞りなく行われたことは、登山隊長、総務委員長を中心とする事務局の皆さんの綿密な通信テストと無線機配置計画のおかげである。任務を終了するにあたって関係者全員に感謝申し上げます。

## 14. 救護記録

設営救護担当 石田 信康  
新潟県立新潟中央高等学校

### 1 大会までの準備状況

登山はすべての行動役員が監督と同様に、選手と一緒に山に登る。他の競技にはない特殊な条件である。毎年、医師看護師の確保に苦慮するという事は前々から聞いていたので、県実行委員会と相談をして早くから確保の準備をすることとした。県実行委員会の方針で、初めは地域の医師会に相談し、それでだめであれば県の医師会、それでもだめであれば北信越の医師会へ広げていくということになった。平成23年の6月に南魚沼郡市医師会を訪ね、登山大会の概要説明と医師の確保をお願いした。快く引き受けていただいたが、まだ先の話ということでその場は終わった。その後、何度か進展状況を聞きに行ったが全然前に進まず時間だけが過ぎて行った。なんとか大会までに確保をしていただくことはできたが医師はとても忙しくなかなか連絡が取れないため、非常に苦勞をした。看護師については23年の10月、(社)新潟県看護協会南魚沼地区協会を訪ねお願をした。協会長が地域のいろいろな病院と連絡を取ってくださり、比較的スムーズに地域内の看護師だけで人員の確保ができた。しかし看護師も登山のできる方を確保するには時間がかかるのでもう少し早めにお願をしておいてもよかったと思う。

医薬品については、湯沢町保健医療センターの医師に先償県で使用した医薬品リストと、過去の報告書の救護記録を渡し、新潟の登山大会に必要と思われる医薬品リストを作成してもらった。医薬品の購入も湯沢町保健医療センターに依頼した。通常の業務で忙しい中、快く引き受けていただき本当に助かった。

### 2 幕営本部での状況

8月8日(水) 登山行動(第2日)

夕刻、設営本部に、女子選手1名が頭痛を訴えて来る。3日前から37°超の熱があったとのこと。症状を聞き、気持ちが落ち着いたのを見計らい幕営テントに帰らせた。

8月9日(木) 登山行動(第3日)

女子選手1名が急性胃腸炎ということで大会参加を断念し、日中は設営本部およびその周辺で休養し睡眠を取った。

男子選手1名が行動途中で治療中との連絡が入る(腹痛、一時的に過呼吸、手足のしびれありという連絡であった)。15:25車でドラゴンドラに搬送され、16:20に幕営本部に到着。医師と看護師の診察があり、点滴を受け、この夜は幕営本部内に宿泊となった。前後して、女子選手1名が下腹部痛と両膝痛、下肢の疲労を訴え、行動離脱して下山、自衛隊員の方に運ばれて幕営本部に搬送されてきた。看護師が対応し、治療を受けた後、幕営テントに戻った。

8月10日(金) 登山行動(第4日)

前日の男子選手は登山行動はかなわず、設営本部周辺で休養した。同じく女子選手は、朝5:00に監督・中村登山隊長が同席し、医師と看護師の体調確認を経て、下肢にテーピングを施して、登山行動は参加となった。その後登山を開始するも行動離脱し、下山後は設営本部周辺で休養した。

上記の状況報告以外では、男子選手1名(虫刺され)、男子選手1名(下唇の腫れ)、女子選手2名(それぞれ左腰、右肩痛)の訴えがあった。以上が、設営本部での救護の状況報告である。

また、朝と夕刻の引継式の際、救護引継式が実施された。対応医師・看護師と設営隊看護師の引き継ぎであるが、コース隊長・支援隊長・設営隊長・隊付救護も参加し、情報の共有を図った。登山行動中の様子が設営隊として把握でき、たいへん有益であった。このような形での情報の共有を指示されたのは真島設営隊長のお考えであったことを付言する。

競技種目別取扱患者一覧表(救護本部用) 平成24年 8月 7日(火)～ 8月11日(土)

競技種目名( 登 山 ) 会場地用・宿泊施設用 ( 湯沢町 ) 実行委員会

		疾患名	性別	選手(搬)	監督(搬)	役員(搬)	補助員(搬)	出演者(搬)	その他(搬)	小計(搬)	合計(搬)		
外 科 的 疾 患	1	擦過傷 切傷	男										
			女										
	2	打撲 ねんざ	男										
			女										
	3	筋肉痛 肉離れ	男									1	
			女	1							1		
	4	関節痛	男										
			女										
	5	骨折	男										
			女										
	6	脱臼	男			1					1		1
			女										
	7	その他	男										
			女										
小計		男			1					1		2	
		女	1							1			
内 科 的 疾 患	1	熱中症	男										
			女										
	2	頭痛	男										
			女										
	3	はきけ 嘔吐	男										
			女										
	4	腹痛 下痢	男	1							1		1
			女										
	5	発熱 かぜ	男	1	1						1	1	1
			女										
	6	脳貧血	男										
			女										
	7	その他	男										
			女										
小計		男	2	1						2	1	2	
		女											
歯科		男											
		女											
		計											
合計		男	2	1	1					3	1		
		女	1							1			
		計	3	1	1					4	1		

注) 取扱患者のうち医療機関へ搬送した者については、(搬)欄に人数を内数で記入する。

## 15. 式典記録

運営総務委員長 牧 口 義 弘  
新潟県立六日町高等学校

運営副総務委員長 渡 邊 仁  
新潟県立新発田高等学校

新潟大会は、地元湯沢町の全面的なご協力により、開会式準備から閉会式の後片付けが終了するまで、「湯沢カルチャーセンター」を貸し切って行うことができた。これは、会場設営など運営上大変に助かった。

アリーナは式典を行うのに十分な広さがあるうえ、会議室や控室も確保できたため、他の施設に移動するなどの時間的な問題もなく、諸会議はすべて湯沢カルチャーセンターで開催できたことも、円滑な運営に大いに貢献した。

開会式では、湯沢町の小中学生たちが「子ども雪おろし太鼓」の演奏を披露してくれ、元気な音色がこれから始まる大会を盛り上げてくれた。さらに、湯沢町教育委員会の配慮により、大会IDを提示すれば、越後湯沢駅に近接する「雪国館」歴史民俗資料館へ、無料で入場できるという措置により、地元をPRすることができた。

また、開・閉会式の前後には、BGMとして、さだまさし氏の「木を植えた男」の中から数曲を利用させていただいた。これは、新井満氏とさだ氏が「新潟21世紀記念事業」のために「にいがた緑の百年物語」というミュージカルを制作し、新潟市で上演したものを、(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会の計らいにより使用を許可していただいたものである。著名な演奏家による、自然と人の関わりというメッセージが、参加者に伝わったことと思う。

次に、式典会場の準備・撤去と式典については以下の通りである。

### 8月4日(土) 会場設営・歓迎袋詰め

9:30 打ち合わせ(各校引率職員参加)

- ・アリーナ設営
  - ①アリーナのシート敷き
  - ②選手・監督・役員席のイス配置
  - ③座席表示貼付
- ・ステージ設営
  - ①式台・司会台の設置
  - ②来賓席・役員席の長机・イス配置
  - ③音響機器の確認
- ・小ホール設営
  - ①シート敷き、長机・イス配置
- ・駐車場の設営
  - ①各配置場所の確認、案内板の設置
  - ②駐車場から会場までに幟旗を設置
- ・その他
  - ①大会ポスター、応援メッセージ掲示

15:30 集合点呼、解散

シート敷きや椅子を並べる作業は大勢の人数により順調に進んだ。しかし、歓迎袋を作る段階では、数種類のものを作らなければならないうえに、詰める品物の数が不足するなど、やや難航した。

### 8月5日(日) ステージ練習・受付

8:40 打ち合わせ

- ・受付設営
  - ①受付用の長机・イスを配置
  - ②表示貼付、受付簿準備

10:00 来県受付

- ①総監督・監督・選手の受付
- ②視察員の受付
- ・ステージ練習
  - ①音響機器操作確認
  - ②キュー出し等確認



③アナウンス練習

④ステージアシスタントの動作確認

15:30 集合点呼、解散

来県受付の注意点として、選手、監督、総監督などにそれぞれのIDと歓迎袋を渡し間違えがないようにしなければならない。受付机を分け、誘導係もつけたため混乱はなかった。

開会式のステージ練習は、事前に六日町高校で練習してあったため、比較的順調に行った。

## 8月6日(月)

### 開会式リハーサル・受付・会場整備

8:40 打ち合わせ

・サンプリングと弁当配付用テント設営

10:00 来県受付

①総監督・監督・選手の受付

②視察員の受付

・ステージ練習

①前日の復習

②歓迎の言葉練習

・開会式リハーサル

①進行マニュアルに従って実施

・各県高体連旗の掲揚、受付、貼り紙等の最終チェック

15:30 集合点呼、解散

開会式の通しリハーサルを行った。音響機器の都合でCDのスイッチを入れるタイミングが難しいことがわかったが、関係者の努力のお陰でうまく収めることができた。

## 8月7日(火) 開会式

7:30 打ち合わせ

・駐車場で誘導開始

・放送開始、サンプリング開始

8:45 受付

①総監督・監督・選手の受付

②視察員の受付

③来賓の受付・誘導・接待

④報道関係者の受付

・選手誘導、ザック管理

9:10 アトラクション

(子ども雪おろし太鼓)

10:00 開式通告

11:05 開会式終了

・弁当配付

①弁当配付場所にてID提示により弁当を配付

12:00 審査開始

①選手と審査員以外を全員屋外に誘導

14:00 A・B隊バス見送り

①役員、補助員全員で拍手で送り出す。

15:00 集合点呼、解散

会場には土足で出入りできるために、開式時間より早く整列が完了し、やや間がもたない感じもあったが、予定通り10時に開会した。アナウンスの生徒は少し緊張していたが、選手団の呼名は無事に終わり、式典はまさに時間通りに進んだ。代表生徒による「歓迎の言葉」も明るく元気でよかった。

サンプリングや弁当配付も当初の計画通りスムーズに配付できたのは、担当した先生、生徒の皆さんの働きによるものである。最後にこれから競技に向かう選手達を役員・補助員全員で温かい拍手をもって送り出し、無事開会式を終了できた。

## 8月10日(金) 閉会式リハーサル

8:30 打ち合わせ

9:00 ステージ練習

・閉会式リハーサル

①音響機器操作確認

②キュー出し等確認

③アナウンス練習

④ステージアシスタントの動作確認

・閉会式リハーサル

①賞状、優勝杯、メダル等の準備

②各種表示の確認

③進行マニュアルに従って実施

15:30 集合点呼、解散

閉会式では、各賞状と優勝杯、優勝盾の授与があるため、進行の段取りは念には念を入れてリハーサルを行った。アナウンスとステージアシスタントの生徒は、開会式と同じメンバーなので、反省を踏まえて話し合いながら動きの確認が出来たのは良かった。

## 8月11日(土) 閉会式

7:30 打ち合わせ

- ・駐車場で誘導開始
- ・放送開始、サンプリング開始

8:45 受付

- ①総監督・監督・選手の受付
- ②視察員の受付
- ③来賓の受付・誘導・接待
- ④報道関係者の受付

- ・選手誘導、ザック管理

10:00 閉会式開始

11:05 閉会式終了

- ・成績一覧表配付
- ・各県高体連旗の返却
- ・弁当配付

13:00 会場撤収作業開始

- ①アリーナ及びステージのイス撤去
- ②モップがけの後、シート撤去
- ③駐車場の案内板、幟旗の撤去
- ④各種表示、ポスターの撤去

14:30 集合点呼、解散

昨日のリハーサルのお陰で、進行は時間通りに進んだ。閉会式終了後、ザック置き場に掲示してあった、地元の小中学生が一生懸命に描いた「応援メッセージカード」を成績一覧表と一緒に持ち帰ってもらった。

ステージでは参加校が記念撮影を行い、各選手は思い思いのポーズでカメラに収まり、名残を惜しんでいた。

他県の皆さんが引き上げたアリーナでは、新潟県央工業高校が念願の初優勝を果たしたことに對して、ささやかな優勝報告会が開かれた。その後、全員の協力で会場の撤収作業が素早く終わったことは言うまでもない。連日朝早くから、運営に当たってくれた該当の生徒の皆さん、先生方に改めて感謝申し上げたい。

## 16. 総務記録

総務委員長 眞 島 智 宣  
新潟県立長岡工業高等学校

### 平成 22 年度まで

私がインターハイを新潟で開催するという話を聞いたのは、平成 19 年に何も知らずに委員長を引き受けた時のことである。私はそのままインターハイの渦にのまれていった。開催地の候補を苗場山周辺と妙高山周辺の二つに絞り、できるだけ開催市町村を少なくすること、幕営地と登山口の移動を短くするという観点で検討した結果、湯沢が第一の候補地となった。その時、苗場プリンスホテルとドラゴンドラが使えたらいいよねという「夢」の話をしたのを覚えている。

インターハイを開催するにあたり、県内の大会をできるだけインターハイのコースで行うことを決定した。大会をやりながらインターハイコースとなる山域を沢山歩いてもらうことで役員養成ができ、参加校にとっても様々なデータを蓄積できたようである。また、できるだけインターハイの経験者を増やすため、登山専門部で毎年行なっている夏山顧問研修会を使って先債県へ視察員を多数派遣した。

最大の難関は湯沢町に開催地として手をあげてもらうことであった。大会の候補地としては最高の場所である湯沢町。開催市町村が一つで苗場プリンスホテルが使えれば幕営地も一つで済む。また日帰り山行が可能な素晴らしい眺望の 3 コースが取れ、いずれも幕営地から近い。こんな適地である湯沢町であったが、湯沢町はスキーマのメッカでもあり、過去冬季のインターハイや国体を何度も開催してきた町である。経験豊かである半面、財政面で持ち出しが多いということもあり 3 年前に国体をやったばかりで、又インターハイをお願いするのはとても大変であった。しかし、インターハイ登山

大会の特徴などを丁寧に説明し、負担をあまりかけないという条件で何とか引き受けてもらえることになった。しかし、開催地決定は予定より半年以上遅れていた。

次の難関は苗場プリンスホテルとドラゴンドラを使わせてもらうこと。かつて幕営地にリゾートホテルを使った大会はなく、登山コースにゴンドラを入れるのも稀であった。苗場プリンスホテルに説明をしに行かなければならないことは分かっているのだが、なかなか足が向かない。そんな無駄な日々を過ごしていたが、全国の視察が来る日が迫り、意を決して苗場プリンスホテルに向かった。苗場プリンスホテルのレストランに通され総支配人と担当の係り 3 人に、「登山大会とは」というところから説明を始めた。最後に恐る恐るゴルフ場として使っていたところを幕営地にし、夏季に営業をしていないドラゴンドラを使わせてほしいという希望を述べて説明をお終え、総支配人からの返事を待った。その返事は「どうぞお使い下さい」というものであった。一気に体の力が抜けた。その年、苗場プリンスホテルは不況のため、夏季の営業を中止したばかりだったのが「夢」の実現につながったのだと思う。

それから約 2 週間後に、中央からの視察を受け、概ね良の回答をもらった。今思うと、ぞっとするような話である。

22 年度は並行して地図作成の準備も始めた。新潟県は年の半分は、雪で登山道の測量はできない。早めに準備をしようということで、国土地理院の次年度予算に大会山域の測量分を計上してもらうこと、地図作成に関してデータなどの提供協力をしてもらうことをお願いし、了解をもらった。

## 平成 23 年度

23 年度から会場地担当教員が一人、週 3 日湯沢町に配置されることになった。あらかじめ一人に仕事が集中しないよう、県高体連登山専門部の委員長、登山隊長、総務委員長を 3 人で担当することにし、それぞれの仕事分担を決めておいたので、関係機関との連絡調整をする係になっていた私が湯沢町に赴くこととなった。湯沢町では、初めは何をしたらよいのか全くわからなかったが、とにかく前に進めようと思いつく仕事から始めた。やらなければならないことを思いつくとメモをし、やったこととやっていないことの整理をしていく毎日が続いた。いちばん情けなかったは自分のメモが何を意味するのがわからなかった時である。

### 平成 23 年度の主な事業

#### 1 会議の開催

- (1) 総会の開催 設立総会 (H23. 5. 31)
- (2) 各専門委員会の開催 (H23. 12. 8)
  - 総務・企画専門委員会
  - 競技・式典専門委員会
  - 宿泊・輸送専門委員会

#### 2 先催地視察

- (1) 2011 熱戦再来北東北大会登山大会の視察 (H23. 8. 6~13)
- (2) 青森市・弘前市からの情報収集 (随時)

#### 3 関係機関・団体等との連絡調整

- (1) 新潟県実行委員会との連絡調整
- (2) 全国高等学校体育連盟、新潟県高等学校体育連盟、新潟県山岳協会との連絡調整
- (3) その他の関係機関・団体との連絡調整  
環境省志賀高原自然保護官事務所、新潟県県民生活・環境部環境企画課、中越森林管理署、湯沢町産業観光課、環境省万座自然保護官事務所、群馬県自然環境課、利根沼田森林管理署、みなかみ町役場観光商工課、群馬県谷川岳登山指導センター、長野県環境部、自衛隊と連絡を取り協力を要請した。

#### 4 開催準備業務の推進

##### (1) 総務・企画関係

- ①各業務の実施要項・要領等の作成
- ②各種広報媒体による周知・広報活動  
湯沢町のホームページに湯沢町実行委員会のページを作成し、情報を随時提供
- ③各種イベントへの参加による周知・広報活動。各高校の文化祭でPRをした。

##### (2) 競技・式典関係

- ①大会実施要項の作成 (H24. 3. 15)
- ②競技役員、運営役員、補助員の編成および養成  
第 1 回役員養成研修会 (H23. 10. 8~10)
- ③競技山域の登山道および仮設施設、競技・運営用具の整備計画
- ④大会用地図の作成 (現地調査、測量等)  
大会コース踏査  
苗場山コース…  
(H23. 7. 8、8. 2、9. 16、10. 9、10. 15)  
平標山コース…  
(H23. 5. 7、8. 3、10. 10、10. 15)  
三国峠コース…  
(H23. 5. 21、5. 28、6. 3、10. 15)  
大会地図の完成 (H24. 3. 26)
- ⑤リハーサル大会の支援  
秋季全県登山大会兼リハーサル大会の実施 (H23. 9. 15~16)
- ⑥無線通信テスト (H23. 10. 15、H24. 2. 18)
- ⑦予報第一号の作成 (H23. 3. 28)
- ⑧開・閉会式及び表彰実施要項の作成  
(H23. 3. 28)

##### (3) 宿泊・輸送関係

- ①各業務の実施要項・要領等の作成  
(H23. 3. 28)
- ②県配宿センターとの連絡調整 (宿泊、弁当関係) (H24. 3. 18)
- ③医療・救護計画の作成 (H23. 3. 28)
- ④輸送・交通計画の作成 (H23. 3. 28)
- ⑤警備・防災計画等の作成 (H23. 3. 28)
- ⑥警察・消防・保健所・医療機関等、関係機関・団体との連絡調整(随時)

- 5 その他開催に必要な準備業務の推進
- (1) 実行委員会事務局の設置・運営  
(H23. 5. 31)
  - (2) 大会運営費の試算 (H24. 3. 28)
  - (3) 平成24年度事業計画及び予算作成  
(H24. 3. 28)
  - (4) 本町実行委員会への派遣教員に関する新潟県との調整・協議(随時)
  - (5) 全国高体連競技専門部の競技会場視察への対応(随時)

## 平成24年度

24年度から会場担当教員2名が週5日湯沢勤務となり、登山隊長と総務委員長の私が担当となった。さらに湯沢町が臨時の事務職員を採用してくださり、専用の部屋も用意していただいて3人体制で業務の開始となった。他に公民館業務と兼職であるが事務局次長と会計担当を入れると5人体制ということになる。いよいよ本格稼働である。相変わらずわからない部分も多くあったが、人数が増えたことで飛躍的に業務スピードが増した。また皆の事務能力が非常に高く、「あれ作らなきゃいけないよね」「それもうできてます」というケースが多くあり、順調に業務が進んでいった。

## 平成24年度の主な事業

### 1 会議の開催

- (1) 総会の開催 総会 (H24. 5. 24)
- (2) 各専門委員会の開催 (H24. 5. 24)  
総務・企画専門委員会  
競技・式典専門委員会  
宿泊・輸送専門委員会

### 2 関係機関・団体等との連絡調整

- (1) 新潟県実行委員会との連絡調整
- (2) 全国高等学校体育連盟、新潟県高等学校体育連盟、新潟県山岳協会との連絡調整
- (3) その他の関係機関・団体との連絡調整  
中越森林管理署、湯沢町産業観光課、群馬県自然環境課、利根沼田森林管理署、みなかみ町役場観光商工課、自衛隊との連絡調整。

### 3 開催準備業務の推進

- (1) 総務・企画関係
  - ①各種広報媒体による周知・広報活動  
湯沢町のホームページに湯沢町実行委員会のページを作成し、情報を随時提供  
湯沢町の広報に登山大会の紹介を掲載
- (2) 競技・式典関係
  - ①拡大事務局会議の開催 (H24. 6. 22~24)
  - ②競技役員、運営役員、補助員の編成および養成  
第1回安全対策会議 (H24. 7. 6~8)  
第2回安全対策会議 (H24. 7. 14~16)  
補助役員説明会 (H24. 7. 19, 20)
  - ③競技山城の登山道の整備、競技・運営用具の購入
  - ④予報第二号の作成 (H24. 7. 12)
  - ⑤大会プログラムの作成 (H24. 7. 13)
  - ⑥開・閉会式及び表彰実施マニュアルの作成 (H24. 7. 28)
  - ⑦礼状の発送 (H24. 8. 17)
  - ⑧大会報告書の作成 (H24. 9. 20)
- (3) 宿泊・輸送関係
  - ①県配宿センターとの連絡調整(宿泊、弁当関係) (随時)
  - ②警察・消防・保健所・医療機関等、関係機関・団体との連絡調整(随時)

## 5 その他開催に必要な準備業務の推進

### (1) 大会運営費の予算・決算

インターハイをやってみて、やはり大事なものは「人」なんだと改めて感しました。大会の準備の中でいろいろな団体や人達に協力や支援をお願いしてきましたが、高校生の大会ということで、もろ手を挙げて協力をして下さる人たちが沢山いました。しかし、中には「勝手にルールを作って競技をし、自己満足しているだけ」「公共の場を、勝手に占有するな」というようなことをいう人達がありました。私は高校生に安全登山の知識や技術を身につけさせるというインターハイ登山大会の目的や意義は、素晴らしいものだと思っています。しかし、このインターハイ登山大会を知らない登山愛好者の中には、不愉快に思っている人たちが多くいるということは確かです。私たちはこのことを常に念頭に置いておくことが、インターハイ登山大会を続けていく上で大事なことではないかと

思います。

私にとってインターハイの渦はものすごく強烈な渦でした。当然一人では太刀打ちできず、その渦に身を任せるしか方法はありませんでした。しかし、渦にもまれている自分を見て、支援をして下さる人が日を追うごとに増えてきて、気がつくといつの間にかその渦はなくなっていました。至らない点が多々あったと思いますが、多くの人に支えられ、フォローしていただいたおかげで無事大会を終了することができたと思っています。今はインターハイの渦はとても心地の良い渦だったように思います。ありがとうございました。

## 17. 準備経過概要

年	月	日	曜		日	曜	事業
20	8	4	月	～	11	月	全国高校総体視察(埼玉)
21	3	25	水	～	25	水	湯沢町へ協力依頼
21	4	20	月	～	20	月	湯沢町からほかの自治体の検討を求められる
21	7	15	水	～	15	水	再度湯沢町へ協力依頼
21	7	30	木	～	30	木	湯沢町開催応諾
21	12	16	水	～	16	水	第1回新潟県準備委員会
22	5	7	金	～	8	土	中越地区大会(三国峠)
22	6	3	木	～	5	土	県総体(平標山・仙ノ倉山)
22	6	16	水	～	16	水	国土地理院協力依頼
22	7	2	木	～	2	木	新潟県実行委員会第1回総会
22	8	5	木	～	10	火	全国高校総体視察(霧島)
22	8	16	月	～	18	水	全高校高校総体登山大会コース視察(夏山研修会)
22	9	3	金	～	3	金	第1回競技専門委員会
22	9	16	木	～	17	金	秋季全県登山大会(苗場山)
22	9	28	火	～	28	火	苗場プリンスホテル訪問(会場使用依頼)
22	10	12	火	～	14	木	全国高校総体中央視察
22	10	15	金	～	16	土	全高校高校総体登山大会コース視察(岩登り研修会)
22	10	29	金	～	29	金	第1回役員補助員編成調査提出
23	1	15	金	～	15	金	総務専門委員会
23	1	28	木	～	28	木	新潟高体連登山専門部第1回準備委員会
23	4	4	月	～	4	月	新潟高体連登山専門部第2回準備委員会
23	4	20	水	～	20	水	かがやき総体配宿センター監事会社来庁配宿輸送打ち合わせ
23	5	6	金	～	7	土	中越地区大会(平標山)
23	5	31	火	～	31	火	湯沢町実行委員会設立総会
23	6	2	木	～	2	木	新潟県実行委員会第2回総会
23	6	2	木	～	4	土	県総体(三国峠)
23	6	17	金	～	17	金	大会要項原案完成
23	7	1	金	～	1	金	新潟県高体連登山専門部第3回準備委員会
23	7	4	月	～	4	月	新潟県実行委員会会場地実行委員会第2回実務者会議
23	7	8	金	～	8	金	苗場山事前踏査
23	7	13	水	～	13	水	予報原稿作成依頼
23	7	14	木	～	14	木	新潟県実行委員会第3回競技専門委員会
23	7	20	水	～	20	水	国土地理院現地調査苗場山
23	7	28	木	～	28	木	第2次編成調査提出・フジロック会場視察
23	8	1	月	～	3	水	夏山研修会
23	8	2	火	～	4	木	国土地理院現地調査平標山・三国峠
23	8	6	土	～	13	土	北東北インターハイ視察
23	8	26	金	～	26	金	高体連登山専門部第4回準備委員会
23	9	15	木	～	16	金	秋季全県登山大会兼リハーサル大会(苗場山)
23	9	21	水	～	21	水	新潟県実行委員会会場地実行委員会第3回実務者会議
23	9	22	木	～	22	木	第2次編成調査(修正版)提出

23	9	28	水	～	28	水	新潟インターハイ概算支出第3回試算書提出
23	9	28	水	～	28	水	陸上自衛隊高田駐屯地訪問
23	10	8	土	～	10	月	第1回役員養成研修会
23	10	14	金	～	14	金	新潟県登山専門部全県顧問会議
23	10	15	土	～	15	土	岩登り研修会兼無線通信テスト・予報第一号原稿確認
23	10	20	木	～	20	木	新潟県実行委員会第4回競技専門委員会
23	11	21	月	～	21	月	新潟県実行委員会会場地実行委員会第4回実務者会議
23	12	8	木	～	8	木	湯沢町実行委員会第1回専門委員会
23	12	14	水	～	14	水	新潟県実行委員会会場地実行委員会第5回実務者会議
24	1	12	木	～	12	木	新潟高体連登山専門部第5回準備委員会
24	1	31	火	～	31	火	高体連提出予算提出・第3次役員・補助員編成表提出
24	2	18	土	～	19	日	第2回無線通信テスト
24	2	20	月	～	20	月	申し込み関係書類提出
24	3	1	木	～	1	木	新潟県実行委員会会場地実行委員会第6回実務者会議
24	3	22	木	～	22	木	新潟県実行委員会第5回競技専門委員会
24	3	23	金	～	23	金	大会諸経費予算書提出
24	3	26	月	～	26	月	大会地図納入
24	4	5	木	～	5	木	平成24年度全国高校総体競技種目別大会経理関係係説明会
24	4	22	金	～	22	金	大会地図発送
24	5	7	月	～	7	月	陸上自衛隊高田駐屯地打ち合わせ
24	5	10	木	～	10	木	予報第1号ホームページアップ
24	5	24	木	～	24	木	第2回実行委員会総会・専門委員会
24	5	31	木	～	2	土	県総体（平標山）
24	6	8	金	～	8	金	新潟県実行委員会会場地実行委員会第7回実務者会議
24	6	22	金	～	24	日	拡大事務局会議・審査員講習会
24	7	6	金	～	8	日	第1回安全対策会議
24	7	9	月	～	9	月	陸上自衛隊高田駐屯地と覚書調印
24	7	12	木	～	12	木	予報第2号ホームページアップ
24	7	13	金	～	13	金	大会プログラム完成
24	7	13	金	～	13	金	苗場プリンスホテルと契約
24	7	14	土	～	16	月	第2回安全対策会議
24		4月～6月					レンタル物品入札
24		5月～7月					レンタル物品契約
24	7	19	木	～	20	金	役員・運営補助員説明会
24	7	31	火	～	2	木	大会コース最終確認
24	8	4	土	～	4	土	大会関係配布物袋詰め作業
24	8	5	日	～	6	月	諸会議・大会受付・リハーサル